

賀来飛霞より山路屋への書翰(一)

西岡 昭

(七)

三月廿九日の御ふみ今月六日相とゞきありかたく拝しまひ
らせ候、時分から春あたゝかに相成まし候ところ、ミなく
様御そろひ御きけんよく御しのき相かわらす御さかんに入ら
せられ、かすく御目出度そんしまひらせ候、次にこゝもと

にてもいつれも相かわりなくくらし候まゝはばかりなから御
きもしやすくおほしめし可被下候、熊次郎様にも相かわらす
御きけんよくくもん御べんきやふに御座候、

今日ハにちやうにて小石川へ御出被下ゆるく御はなし
たし申候、拘て御同人様の六月に御かへりの事も市郎平様へ
御そふたん申上候処、御そつぎやうまではいまだ御あいだも
あり候事ゆへ、ちよといちおふ御かへりハよろしかるべしと
おほせられ候、その事をも熊次郎様へ申上おき候、いつも申
上候通り至ておたつしやの御せいしつに御座候まゝ、御きづ
かひなされましく候

一 三次郎事病氣わざく御たづね下され山々ありかたくそ
んしまいらせ候、同人事もきんじつハよほとよろしく、学校
へも日々まひり候やふ相なり、まつあんしんいたし候、只今
のやふすに御座候へばきつかいも無御座なく候まゝ、かなら
すく御きつかい下されましく候、

同人がもよろしく御礼申上候

一 御老人様にも去年このかたたひく御じびよふに御なや
みさきたづてことのほか御たいそふに入せられ、ミなく様
御きつかひのよし、こゝもとにてもまいく御うわさいたし
御きつかひ申上候、田原がも御やふたい申参りなほもつて御
きつかひ申上候、せつかく御かんひやうせんいちにそんしま
いらせ候、

おほせのごとく御としの事にてあなた様御しんばひのほど御
さつし申上候

一 市郎平様にもさる九日に御立しんにて四等属と申に御進

ミなされ候、今日はこかね井と申七里ほどあるところに花見に御出にて、御留主に御座候、おけい様も東静夫様へ御ゑんだんとか申事にうけたまはり申候、かた／＼よろしき御つがふに御座候

一 私事も来月に者てしまひいたしかへりのつもりにも御座候、いつれ来月も中ころすきとそんし候、いまたすこしもてしまひてきもふさす候、先は三次郎御たつ様の御礼の御返事申上度あら／＼目出度かしく

(十二) 四月十三日

賀来飛霞

賀来おとふ様

まいる

なが／＼やどもとの事大きに／＼御せわに相なりありかた
くそんし候べく候、

この□へながら御心そへ□され候やふ、ねかい上まひらせ
(候カ) □、このあいたハす □ 川の花さか □ うけたまは

□花見にてか □ (け候カ) ところ、それハ／＼み □ 両方へ接

の □ ずかきりもな □ (く) さきそろひ □ 下には両がわ
に茶みせ・酒みせ・りやふりやおよそ廿丁はかりのあいた

に、馬車・人力、又騎馬の兵たい、又士ぞく・華ぞく・僧りよ・平民われ／＼でかけ廣き道もとほりかね候ほとにて、たまがり／＼、人におされて通り申候、今年のやふな事ハ東京の人もおほへぬと申事に御座候まゝ、一ふで申上候、これハさる六日の事に御座候、

私ハ朝のうちまひり熊次郎様ハひるから御出にて、なほ／＼こんざつなりしとの御はなしに御座候、只今ハ桜も一重ハちりて、八重桜のさかりに御座候、市郎平様も花のあるうちハにちやうにはかならず花を御らんなさるとてしきりに花見に御出に御座候、

私の日々しゆつきんの御役所ハ、桜ハ申におよはず、あらゆる花といふ花をあつめ候ところにて、□れ□も見物の人はまいり候、只今か美に花の都に御座候、さりながら故郷の花をハワすれもふさす御笑ひくさに

咲花もたひにてあれハ見るごと

ワがふるさとの春ぞゆかしき

かへす／＼きん日は東京ことのほかさむく、冬の衣しやふにてさむ／＼としのぎ申候、おん地はいかゞ折角御やふじん可被成候、八重桜のさかりに御座候、それハ／＼見事の

花に御座候、御序御しつ様、勝太郎様へよろしく御申しあげ可被下候

(八)

寒候、益御佳勝被成御座奉拝賀候、次に小生依旧罷在候、乍憚御放念可被下候、拘而此節ハ麻生君御帰国に付、寸楮呈候、然者爰元にても熊次郎様益御安康御勤字に御座候間、御安心可被成候、小生儀も此間までおしづ様に御同居し申、大に御世話に相成居候へとも、御同人様にも御養蚕之思召に而、本郷安部候之邸内に御転宅に相成申候、同邸内に者数千本之桑有之候、何れ御都合宣敷儀と奉存候

一 尊祖父様にも此節ハ愈御全快に而益御壮健之由、誠以大慶之義一に奉存候

一 御普請も既に御落成に而、旧九月之御祭礼には御新宅に而賑々敷御祭被成候由、目出度奉存候、此節草木ノ種子少々呈上仕候、御新庭に御試可被成候

一 小生進退も未た少々決心仕兼申候、何れ不遠決心之程可申上候、十が八九帰国の方と奉存候、長々留主中御世話に相成難有奉存候、

此上宣敷御依頼申上候

一 当方之事ハ諸事新聞紙に而御承知之事故之ヲ略し申候

一 南様者最早猪苗代湖之洪水に御取掛りに御座候、同湖之近傍に一小湖アリ、其湖ハ御着手ノ様に承り申候、新聞上に而見候へ者、此頃ハ一万人程人夫も御取掛ケ之様に御座候、肥後ノ徳兵衛も妻子を携へ先日東京まで参り居候、外に廿人程召連れ近々岩代へ出発之勢に御座候、佐左衛門も十人程召連候、既に先日出発仕候、是ハ此方に者参り不申候、南様にも御喜悅と奉存候

一 今度は御母堂様へ別紙呈上不仕候間、山々宣敷御申上可被下候、小生も日勤、其上短日に而事務に追ハレ、赤なり青なり日々を暮し申候、

御憐察可被下候

一 晴湖ノ画ハ出来、小生も拜見仕候、相應ノ出来に御座候新岡之書ハ未た出来不仕候、是ハ他県に参り居トカ承候、

先日当今ノ都下ノ書画直段付と申を一見仕候、三洲先生書ヲハ第一等也、画ハ老山先生也、支那に而稽古致候人也、是等が五円に而御座候、晴湖ハ二円組に御座候、乍去此番附通りにも必ス参り申間敷候

一 お千代も産後に発熱致し、久敷相惱々候処、此節者快方に相成候間、此段御母上様へ御安心被下候様御申上可被下候
 一 乍筆末お参様へ宣敷御申上可被下候、油布院之御老人様御快方え由、太田謙吾より委細承り候、追々御全快と奉存候、先者幸鴻に抔候、草々頓首拜

(十二) 十一月廿六日

賀来飛霞

賀来惟弘様

几下

(九)

十二月十一日之御手簡難有拜見仕候、御揃益御安泰珍重奉存候、次に爰元南様熊次郎・其他何れも無異儀消光仕候条、乍憚御休意可被下候、熊次郎様御事先日南様御帰京に而色々御説諭も有之、且私方へ御同居候間、御辛抱ハ申上候迄も無之ハ御放念可被下候、洋学者流之事ハ昔風之謨学振りトハ大に相違に付、何も相分不申候へとも、他之洋学者へも色々問合せ見申候間、私も少々ハ分り申候、諸事塘南様と御相談申候心得に御座候

一 御地も無雨川筋辺にて井水困却と御紙上驚申候、乍去当地にも久敷雨者無御座、雪もふり不申候、寒ハ近日大分強候へとも、雨雪ナキ故凌能、其上只今寓居至テ日当りに而大ニ冬籠に者宣敷御座候、火災者新聞上に而御承知之通里ノ事に御座候、室蘭江瀧大火ノ由驚入り申候

一 熊次郎様御物入りも一ツハ諸品高直より起り申候、何一ツ安キモノハ無御座候間、小給モノハ立行不申程に御座候、此上如何相成可申欵、是ニ引替テ安キモノハ交際證書ノに御座候と申事に御座候、私儀も御恩借之御蔭に而東京迄ハ参り、誠に難有奉存候、来テ見レバ此上如何相成候欵分り不申候、所謂貧乏人ノ行先ニコウラガ立ツと申場合に御座候、御憐察可被下候、先者御回答迄、草々頓首

(十二) 十二月廿三日

賀来飛霞

賀来惟弘様

御回答

尚々時候折角御自愛可被成候、紫蘇ニ似タル赤キ花咲ノシモパンラノ面白事に奉存候、

何れ種子ハ御取り置候欵、尚名花ノ種子差上度事奉存候

新玉の年の始の御寿いつかたも同じ御事祝ひ納候べく候、先以其御地御揃益御きけんよく御としかさねなされ、かすく御目出度そんし上候べく候、次に爰もといつれも無事に年かさねいたし候まゝ、はゞかりながら御あんもし下さるべく候、私事も長々の留主にて宿もとの事、ひとかたならず御世話に相成まし、山々ありかたくぞんし上候べく候、熊之助様にもしごく御たつしやにてがくもん御べんきやふに御座候まゝ、かならずく御きづかひなされまじく候

一 五郎申参候事に付、今いちおふ御ひよふきのうへ山蔵あきゆきどのぐくわしきたより御座候ハは、一郎平様とも御相談申しきにあきゆきどのへ返事つかはしもふすべく候

一 一郎平様には岩代の国かいたくの御みつもり、御つかふいたつて御よろしきよしに御座候、

いつれ今年も岩代へ御こしとぞんし候、両三年ハ岩代福しまの人のよふに御なりなされ候事とぞんし候、おひくにはかならず御立身の御事とぞんし候、御同人様御事ごくく御たつしやにて日々御つとめなされ候まゝ、これまた御きづかひなされまじく候

一 熊之助様御事も先便御老人様へくはしく申上おき候、おひく御上達に御座候間、御しんばひなされましく候、東京にてハ金ハことのほかに入り申候、私とも三次郎と兩人にて六円づゝにてくらしかね申候、そのうへ熊之助様しよもつを御かいなされ候に付、すこし入りこし候わけに御座候、私ともむやうの事には一銭もつかいもふさず候へども、すこしものこりもふさず候、きるものもいぢまいもきもふさず、売人にて月に三円くらひハしよくじに入り申候、小つかひも貳円あまり入申候、熊之助様今一二年ほども御とふりゆうに候へば、よびと申がくもんだけ御しまいに申候、よびをしまひ候へば、本課と申を御まなびに御座候、ぜひく本課と申まで御すゝみなされ候へば、金をだし候人御座候と申事御座候、先日は熊之助様にも大に御しんばひの御やふすにていぢおふ御かへり御だんばんなされ候とおほせられ候を、御なだめ申上候、いろく申上度事も御座候へとも、ふてふてふはふゆへ何も帰国のうへとのこし候べく候、まつハ御返事まであらくめてたく、かしく

(十三) 一月十七日志たゝめ 賀来飛霞

賀来おとふ様

まいる

かへすくもさむさ折角おいとひなさるへく候、およね様・

おやす様へもよろしく御伝へ可被下候

一 惟熊様にもおりく御ふるいおとり候よし、御老年の御事ゆへ大にく御きつかい申候、御序よろしくおふせ上られ可被下候

(十)

一 筆申上度候 御老人様御儀近年御病苦いやましにていらせられ候処ついに御不幸のよし 熊次郎様へ御でんぼふまいりじきにうけたまはり誠に以而おとろきいり候べく候 皆様御愁傷のほどふかく御さつし申上候 私事ハひとかたならず御せわに相なり申候ものにてなにごとも御たより申候に右の御電報にて大にちからおち申候 こゝもとにてもおしづ様おちからおとしのほと御気のどくにそんしまひらせ候 右御悔申上度あらくかしく

(十三) 三月八日

賀来飛霞

賀来

おとふ様

(十一)

御母公様御始皆様御揃益御安泰奉拝賀候、一昨日直に郵便ヲ以テ熊次郎君御居処尋出し、昨日南氏通に相成、久方振得拜顔大慶奉存候、不相替至而御壯健に被成御座候、御安心可被成候、出立之砌、御扼しノ金貳拾円直に御同人へ差上申候間、此段御承知可被下候、何れ御同人も御入手之旨御申上可被成と奉存候

一 御同人様此節御学問ノ道行少々御転し之旨、御話し有之候、御転シと申ハ大学校ヲ御退キ独学に而学問可被成と之御事に御座候、其訳ハ学校ニテハ年限長シ、御独に而学問ナサレ候へば年期短御成就と申御目的に御座候、小生ニ於テハ御同人之御説一應ハ御最に存候へとも、道行ヲ御転シハ甚不宣と愚考仕候、大学ニ御入校ノ上ハ年期等ノ事ハ御自身にも十分御承知ノ御事に而、今更俄に御転しと申ハ相分り兼申候、第一右学校にて御卒業に相成候時ハ證書等も有之、日本国中ノ人も知申候也、何程学力強候テモ知候人無之テハ、摺ナル訳に御座候、譬へハ我コソ正直第一ノ人物ナリト思ヒモシ、

言モシテモ、人ハ矢張り如何ト疑ヒ申ト同様ナルヘシ、極ク高上ノ処ニ而申候へ者、其證書無テモ其力アレバヨケレド、人カ知ラネバ矢張り損ナルヘシ、此辺如何可有之歟、篤と御考ノ上御答可被下候、乍併小生も木下雄吉が申如ク洋学と申モノヲ存シ不申候間、如何とも申上ラレザレド、小生ノ実意丈ヲハ一應不申上候テハ不相濟義と奉存候

右者愚筆ノ悉ス所に者無御座候へとも、此地にも洋学先生に小生と懇意も少ナク御座候間、先未タ他之先生に者尋も不仕、愚存丈ヲ申上候、何れ明年ハ殿誰カ御東上可被成候間、先ツ其レ迄ハ矢張り大学校に御入り御勉強可被成様小生ハ御同人様へ強而可申上歟と相考罷在候、一郎平様へも一應ハ御相談申上候心得ニハ御座候、先者不取敢右御報知申上候、餘ハ陸続可申上候也、頓首

(十三) 十月廿四日 賀来飛雲

賀来於桃様

賀来惟弘様

几下

尚々時候折角御自愛可被成候、

一 熊次郎様も何れ委敷御手紙御差出し奉存候、道行御転シハ御学問進退に關係スル事ナレハ、容易に似テ容易ナラヌ事ノ様ニ相考へ申候、年限ノ縮ムハヨケレド学資ハ存分ニ入レ度者御同人者被仰候、小生ニテハ御卒業ノ切りガ付ズテノ御損と相考へ申候、乍併学力強サへアレバ宣敷訖に者御座候、力強ケレバ追々ハ人モ知り可申候へとも、急には人ニ知ラル、事難シ、只々独御自分にて学問ヲ樂ムと申処にナサレ候へば、一言も無御座候、此辺も小生も終夜相考へ申候、

何分貴君ノ御考ヲ奉待合也

(十四)

二日御差立之朶雲一昨日到来難有拜見仕候、

時下御揃益御安泰珍重之御儀奉存候、次に私とも無異消光仕候、乍憚御安意思召可被下候、四郎五郎子ハ兼而御懇篤之指図之如ク鑄造之大家へ十日ハ入込ミ申候、委細者多十郎君迄申述置候、拘而私も小石川区大門町拾三番地と申に借宅仕候、先日申上候通り廿日に着京廿七日百円増給と被申渡候に

付而ハ、直に帰国と申にも至り兼候間、右地所へ借仕候間、

東京小石川区大門町拾三番地ヨリ

祭次郎も同居仕候、近日熊次郎様も御同居被下候様相成可申候、右様相成候ハ、諸事御相談申、共々辛抱可仕と相樂々罷

(四)

御文難有拜し候べく候、寒さの時分に相成候処、御揃益御

在候、御同人様にも少々御心配ノ事被為有候由、既に貴君へ御手紙も御差立と承り申候、何れ御高按被仰下候義と奉存候、是等ノ事ハ致方も無御座候間、以来之処を固候様と相考へ申候、御学問道行之事ハ先日申上通り御座候、是も御高按を仰

きけんよく入らせられ候よし、御うれしく目出度そんし候べく候、次に爰もと南様・熊次郎様いづれも御無事にいらせられ候まゝ御あんもし思召可被下候、おまさ事も安産いたし候よし、かれこれと御せわ様に相成候義とそんし候べく候、四

キ居候、此節ハ時々御目に掛り申候間、何も無腹臆申上候

郎五郎様御留主にておかね様御せわと御きのとくにそんし申

一 近日は天氣続に御座候処、二度許地震シ雨ふりと相成、

候、拘て熊次郎様もたび／＼私方にも御出被下候て、きんし

昨夜ハ間断ナクふり申候、乍併大雨と申に者無御座候、霜ハ四日前位ハ見掛申候、随分大霜に御座候、米ハ老円に七升位に御座候、近辺ノ稻ハ昨今収納に御座候、先者不取敢御返事迄、草々、如斯御座候也、頓首

つの内私と御同居なされ候との御事に御座候、定めて御せわに相なり候事とそんし候べく候、おしつ様もしこく御機嫌よろしく、私もなが／＼御せわに相成ありがたくそんし上候べく候、御加筆のたん早速申上候、四郎五郎様・三次郎も御

十三年十一月十三日

南家并祭次郎ハ宣敷申上呉候様と之事に御座候

加筆のたんあ□^(リ)かたく、くれ／＼よろしく申上くれ候との

尚々時候折角御自愛可被成候、乍筆末御家内様へも宣敷御

事に御座候

伝へ可被下候

一 熊次郎様御同居に相なり候ハは、なにことも御そふたん

賀来惟弘君 賀来飛霞

いたし、とも／＼にしんほふいたし、べんきよう可仕と相た

奉復

のしみまかりあり候、

先は御返事申上度あらしくめて度かしく

十三年十一月十三日

尚々時候折角御いとひなさるへく候、別府にてぞんしよらぬ御菓子に下され、ふねにてもたのしみ、とふく東京までもちまいりありかたくなのしゝ候べく候、御序おきち様へもよろしく御ったへ可被下候

一 先達而は舟場までわざく御送り下されありがたさに
おくり来し人のすがたをふるさとの

なごりと我はながめけるかな

なとくちずさみ申出候、御わらひくさにかきつけ候べく候
かしく

賀来おとふ様 賀来飛霞

御返事